

# 会 議 録

会 議 名	令和7年度第2回丸亀市放課後子どもプラン運営委員会
開 催 日 時	令和8年3月12日 10:00～11:30
開 催 場 所	マルタス ROOM2
出 席 者	出席委員 奥田 勉・高橋 勝子・野崎 晃広・原田 伸二・森岡 友紀子 谷川 由美・塩田 康広・窪田 美由紀 欠席委員 鎌田 明美・香川 真美・村尾 剛志 事務局として出席した者 末澤 康彦教育長・山下 友通部長・土井 節子課長・ 後藤 幸功副課長・小野 佳代子担当長・ 野口 耕平主任・三井 章子 傍聴者 なし
協 議 案 件	(1) 令和7年度丸亀市放課後子どもプランの現状と課題について ①放課後児童健全育成事業（青い鳥教室）について ②放課後子供教室推進事業について
議事の経過及び 発言要旨	ー開会 午前10時ー <ol style="list-style-type: none"><li>1. 教育長あいさつ</li><li>2. 委員長・副委員長選任</li><li>3. 委員長あいさつ</li></ol>
委員長	まず①放課後児童健全育成事業（青い鳥教室）について事務局から説明をお願いしたい。
委員長	<b>【事務局説明】</b> 前回からの要望で支援員1人当たりの児童数をだしてもらっている。 20人を超えている教室もあるが、15人以上は相対的に支援員の負担が大きくなる状態であると考えます。 各委員さんから質問などがあれば発言をいただきたい。
委員	観音寺市は放課後児童クラブの受け入れが3年生までであり、4年生以降の児童の保護者は放課後の過ごし方に不安を抱えている方も多い。そのような中、丸亀市は6年生まで受け入れており大変すばらしいと思う。ただ児童数の多さにより、

	<p>支援員の負担が大きくなっていると思うので、これからも支援員の負担軽減に事務局は尽力してもらいたい。</p>
委員長	<p>観音寺市は支援員不足のため、補助員として高校生をアルバイトで雇用している状態であり、どこも支援員不足は深刻である。</p>
委員	<p>多度津町は待機児童が発生し、学童を利用できなく仕事を辞めた方もいる。そのような中、丸亀市は待機児童がなく、受け入れ態勢が整っている点は評価できる。丸亀市内の全小学生の何割の児童が学童を利用しているのか。</p>
事務局	<p>学校により差はあるが、約4割弱の児童が学童を利用している。</p>
委員	<p>学童を利用している児童の中には学童の居心地が悪く、子供教室に通う児童も多い。理由を児童にきいたところ、児童数が多く教室が狭いという点や支援員の厳しい指導をあげる児童が多い。支援員の質の向上にも力をいれてもらいたい。</p>
委員長	<p>校区によっては児童の利用が8割9割ある学校もあるのではないかと。そのような学校だと支援員の負担も増え、トラブルも多くなる。そうなるとうで問題を解決しようとしてしまう。末端の支援員の研修の充実が支援員の質の格差を減らし、支援員の定着につながるのではないかと。</p>
委員	<p>活発な児童が多い教室だと支援員が多くても大変である。また、支援員の考え方も様々で、意見をまとめるのも難しいときもある。支援員が多ければ良いというものでもない。研修などを通じて支援員の意識向上が大切だと感じる。</p>
委員長	<p>児童同士のトラブルも、保護者が介入してくるとスムーズに問題が解決しないケースも多くある。校区の差もあると思う。人数だけでなく、児童の特性に応じた支援の質が重要である。</p>
委員	<p>エリアマネージャーは支援員のためのものなのか。</p>
事務局	<p>イメージとしては支援員のための支援員という位置づけで考えている。現場に支援員が足りなければそこを補う役目もお願いするが、基本的には支援員のフォローを主にしてもらおう。</p>
委員長	<p>支援員同士の人間関係のトラブル、事業団との間をとりもつ仕事も担うのではないかと考える。かなり煩雑な仕事になるのではないかと。次に②放課後子供教室事業について事務局から説明をお願いしたい。</p>
委員長	<p><b>【事務局説明】</b> 各委員さんから質問などがあれば発言をいただきたい。</p>

委員	<p>わんぱくクラブは屋外での活動を主に企画し、親子参加としている。</p> <p>毎回 20 名程の児童が参加してくれている。</p> <p>前回のコーディネーター連絡会でも意見がでたが、教室間の交流が欲しい。</p> <p>他の教室が行っている内容を参考にできれば更なる教室の充実につながると思う。</p> <p>わんぱくクラブでは低学年の参加率が高く、学年があがるにつれて参加率が低くなる。また、全学年が楽しめる内容を考えるのにも苦勞する。</p>
委員長	<p>子供教室は青い鳥教室とは違う難しさがあると思う。</p>
委員	<p>ぐんちゃんクラブのコーディネーターは昨年から多くの子供教室の見学に行き、試行錯誤しながら今年度の夏休みに開室することができた。町内の各分野で活躍されている方を講師に迎え、中学生ボランティアを含め、たくさんの協力者のもと、とても充実したものとなった。</p> <p>主任児童員として子どもたちに携わっているが、同じく主任児童員をされているみんなのみなみみなみのみんな、おじよもんクラブのコーディネーターは子どもの笑顔のために日々がんばっている。</p>
委員長	<p>中学生ボランティアが参加すると現場が活気づく。</p>
委員	<p>長年土器町で活動してきたどっきん☆くらぶが新年度から城北小学校区へ引っ越すこととなり、新たにきたっち☆くらぶとして開室することとなった。</p> <p>新年度の募集をしたところ、もともと参加していた城東小学校の児童が多く、城北小学校の児童が少なかった。</p> <p>なぜ子供教室が大切なのか考えたところ、子どもの体験不足を補う場所として、遊びの中からたくさんの体験や学びができる場所として必要だと思い運営している。城北小学校の児童にもたくさん来てもらいたいと思う。</p> <p>市内に子供教室が増え、地域の大人たちが子ども達のために活動していることは大変うれしく思う。</p>
委員長	<p>いろいろな意見がでてきたが、高齢化などでスタッフの確保が難しい。</p> <p>青い鳥教室と子供教室に関わる人たちが重複しているケースもあり、連携の可能性があるのではないかと思う。</p> <p>文化協会の出前講座も活用しながら子供教室の充実を図ってもらいたい、地域に眠っている人材の掘り起こしも重要である。丸亀市は校区ごとにカラーがはっ</p>

	<p>きりしているのでは、ここまで発展しているのではないかと思います。</p> <p>校区ごとに蓄積されたノウハウを横断的に共有する仕組みが今後必要なのではないかと。オンラインで情報交換の場所をつくるなどするのも一つの手である。</p> <p>人材の融通も今後可能性としてでてくるのではないかと。</p> <p>コーディネーター連絡会ではなく、現場のスタッフの声を拾い上げ共有する場所が必要である。</p>
委員	<p>自分たちがもっている人脈を共有できる会があってもいいと思う。その情報を持ち帰り、各教室で活用できれば内容の充実につながるのではないかと。</p>
委員長	<p>自分たちの教室の自慢話大会のような形でいいので、機会の提供を市として行って欲しい。</p>
委員	<p>子ども企画広場は子どもが主体となる活動である。</p> <p>子ども同士の口コミで広がり、子どもがどんどん集まってくる。大人は子どもたちのサポート役、見守り役として関わっている。今後は城坤小学校という枠を超えて、丸亀市全体で活動していきたいとコーディネーターは考えているようだ。話は変わり、放課後の活動支援のため、三豊市は個人や企業からの資金集めのシステムを作っていると報道で知った。ボランティアの善意だけではなかなか難しいところがある。企業からの資金提供なども含めて考えていかなければいけない。</p>
委員長	<p>新しい動きである。</p> <p>子どもが主体となる活動は、従来の子供教室の進化版である。青い鳥教室と違い、地域の人たちが関わってきたからこそこの形である。これは今後のモデルとなり得る。</p> <p>それと、子どもの数は減ってはいるが、特徴をもつ活動をするにはやはり財源が必要。活動を継続するために、ボランティア頼みではなく、財源や支援の在り方を市として考えてもらいたい。</p> <p>経済状況があまりよくない中、お金をかけずに子どもにいろいろな体験をさせたいと考える家庭は多い。子供教室のメニューも、若い保護者に響く内容であると参加者も増えると思うので、各教室の自慢話大会のような会をぜひ市の主導で開催してもらいたい。</p>
委員	<p>子育て支援課では来年度 2 事業新しく始める予定である。1 つ目は子どもの居場所プロジェクト事業として、市内の子どもの居場所の情報が家庭に届いていない</p>

	<p>状況があることをふまえ、アウトリーチ型支援として、サポーターが各支援団体へ出向き、団体と関係性を築き、そこで得た情報を整理し、マップかなにかの形で子どもたちに発信していくということをしていく。また、支援活動を行っている大人達にもほかの団体の動きをお互いに知ってもらおうという働きかけを行っていかなければならない。2つ目は子ども RIGHTS・アクション事業で、子どもの権利に特化した事業になる。こども性暴力防止法の話もでたが、子どもが健やかに育つ権利、生まれながらにもつ権利の理解を深める取り組みとなる。こちらははじめに新市民会館内に開かれる児童館を拠点に展開予定。決定している行事として、児童館のオープニングイベントを、こども会議に出席する子どもたちに企画してもらい、実行する。大人はそれを見守るという形をとる。二つの事業共にすぐに成果がでるものではないが、長い目でみながら、地域の子どものためになる取り組みになると考える。この会の中でたくさんの意見を聞いた中で生まれた企画なので、引き続き報告していきたい</p>
<p>委員長</p>	<p>聞いてきた中で思ったことだが、各課がいろいろなメニューを企画しているが、子どもや大人達はその情報を探しだせない。ここにいる人達もどの課がどのようなことをしているか把握できていない。ここは市への宿題であるが、子ども関連施設を横断的に整理した1枚物の「可視化資料(マップ)」を作成してもらいたい。部局横断的な、子どもに関連するプログラムや施策が絵の中で一目見てわかるものがよい。</p>
<p>教育長</p>	<p>子どもをめぐる会に色々と出席するなかで、それぞれがそれぞれの役割を果たしている中でいろいろなことを行っている。私自身も委員長のおっしゃる通り、一枚のマップになればいいと思う。私自身もどこが関連しているのか全て把握するのは難しい。そのような状況の中で、可能性を探っていきたい。</p> <p>学校教育現場では、昨年から後援申請されたイベントのチラシをアプリで配信している。これを利用していろいろなことを広報していく。ほかにも丸亀市の公式ラインで子どもの情報を配信するなどできるのではないかな。中学校の部活の地域展開など、全てのことがつながっている。そこが最終的に地域づくりや街づくりにつながっていくと考える。どうつなげていくか、どう発展していくか、どう持続可能なものになるかということを探っていけたらと思っている。</p>

委員	<p>私たちの方で子育て情報マップを作製している。6年生までを対象とした取り組みをまとめて冊子にしている。これを利用して可視化資料(マップ)の作成は可能だ。</p>
委員	<p>このマップは市の中でも活用できるのではないか。</p>
委員長	<p>丸亀市としてお金をかけて行っている事業を見える形にして欲しい。</p>
事務局	<p>本日の会を終了したい。皆様お疲れさまでした。</p>
	<p>—閉会 午前 11 時 30 分—</p>